

【音楽科授業の実践】

(1) 題材名 いろいろな音のひびきを味わおう (6 学年 6 月)

「我は海の子」

(2) 本時のねらい

楽曲の中に見られる旋律のまとまりや音楽の盛り上がりを生かして、歌唱表現を工夫することができる。

(3) 活用に視点を当てた考え、「表現させる授業」の改善・充実

①次のような既習事項の活用の工夫を行ったことは、習ったことを使って、根拠を明らかにしながらにして自分の考えをもつために有効であったか。

- ・文語体で書かれた歌詞の意味や七五調の整った歌詞のリズムを理解することができるように、日本歌曲「おぼろ月夜」で学習したことを振り返る。
- ・曲想に合った表現を工夫することができるように、既習事項の強弱記号や速度記号に着目して曲想を考える活動を行う。

②次のように考えを広げたり深めたりする工夫を行ったことは、よりよい考えを見だし、自分の考えをもつために有効であったか。

- ・学級を2つのグループに分け、旋律のまとまりや音楽の盛り上がりを生かし、曲想に合った歌い方になるよう、グループリーダーを中心に意見を出し合いながら練習する。
- ・グループ練習の成果を発表し合い、表現のよかったところともっと工夫できるところの2点について付箋を活用して交流する。

(4) 授業の様子

①既習事項の活用の工夫

この授業で活用できる既習事項

○強弱記号 ○曲の山場 ○曲のまとまり

本時の学習課題提示の前に、楽譜に書かれている強弱記号の確認と旋律のまとまりについて振り返る場面を設けた。表現の仕方を全員で共有できるように、拡大譜を提示した(図1)。前時では、3段目をmfとし、そのように考えた理由を問うと、「強弱記号が書かれていない場合は、前の段と同じmfと同じ強さになるから」という意見が出され、強さの確認をした。曲の山場について考える際に、児童は強弱の変化があまりないことから、強弱記号に着目するだけでは判断できないことに気付いた。そこで、音程が高くなっているところや作者が歌詞の中で一番訴えたいところはどこかについて考えてみることを助言した。児童は、歌詞を読み返したり、旋律の頂点はどこかを探したりしながら意見交流し、4段目が曲の山場であることを共通理解することができた。

以上、「強弱記号」「曲の山場」「曲のまとまり」の既習事項を生かして、曲想に合った表現を工夫していくことを本時の課題とした。



【図1 既習事項の確認】

②考えを広げたり深めたりする工夫

学級を2つのグループに分け、リーダーを中心に曲想に合った表現の仕方を工夫する活動を行った(図2)。

グループ練習では、発表に向けて意欲的に取り組む姿が多く見られ、しっかりと声を出して歌うことができた。リーダーは、グループのメンバーに、さらに工夫した方がよい点を指示しながら

ら、みんなで協力して取り組むことができた。



【図2 グループ練習】



【図3 グループ発表】

グループごとの発表（図3）の後に、表現のよかったところと工夫できるところの2点について付箋を活用して相互評価を行った。自分たちの発表が終わり、聴いていた児童がボードに付箋を貼ると、すぐにボードの周りに集まり、付箋に書かれた評価を見る姿が見られ、自分たちの表現がどのように伝わっているのかについて大変関心が高い様子が見られた。

（5）成果と課題

①既習事項の活用の工夫について

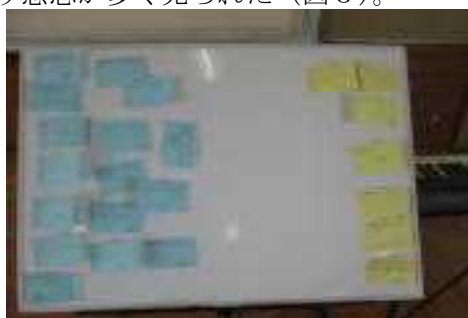
前時に学習した「強弱記号」「曲の山場」「曲のまとまり」について拡大譜を見ながら確認したり、「曲の山場」と「曲のまとまり」については、その根拠までも明確にしたりしたことは、曲想を共有するのに有効であったと言える。

②考えを広げたり深めたりする工夫について

グループで曲想に合った歌い方を工夫する活動は、友達の意見を聞くことにより、自分だけでは気付かなかった工夫について知ることができた。また、オルガンを中心にして半円状に並んだので、友達の歌っているときの表情を見たり、音程や声の強さを身近で感じ取ったりすることができ、友達同士でアドバイスし合うことができた。それぞれのグループの発表を聴き合うことを事前に伝えていたので、意欲が高まり、声を響かせしっかりと歌うことができていた。

しかし、自分がイメージしていた表現の仕方と実際の表現が一致していない様子が見られた。付箋に書かれた評価にも、「声が響いてよかった」「高音がきれいな声だった」などの意見がほとんどであったが、もっと工夫できるところについては、「もっと山場を意識して歌うとよい。」「強弱があまりなかった」などの意見もみられた。（図4）。

本時の学習を振り返る場面では、強弱や曲の山場を聴き手に伝わるように表現するのは難しかったという感想が多く見られた（図5）。



【図4 相互評価】



【図5 振り返り】

自分たちは、強弱や曲の山場をしっかりと表現できていると感じていても聴き手に伝わるように歌うことは難しいことが実感できたことは、今後の表現に期待できることである。

本時は、表現の仕方を全員で共有した後、グループ練習に取り組んだ。各自がどのように表現したいのか、個人の思いや意図を明確にしてから練習に取り組んだことは、意見交流を盛んにし、表現力を高めることに有効であったと言える。